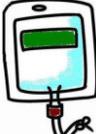
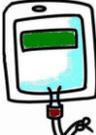


# パクリタキセル+パージェタ+ハーセプチンの治療をお受けになる方へ

## ★治療スケジュール

症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。( )内は抗がん剤の成分名です。

お薬の名前	1日目	8日目	15日目	16~21日目
アレルギー予防 吐き気止め	 30分	 30分	 30分	お休み
パクリタキセル (パクリタキセル) mg	 60分	 60分	 60分	お休み
パージェタ (ペルツズマブ) mg	 初回は60分、 2回目以降は30分	お休み	お休み	お休み
ハーセプチン (トラスツズマブ) mg	 初回は90分、 2回目以降は30分	お休み	お休み	お休み

※アルコールが含まれているため、アルコールに弱い方は、お酒を飲んだ時のように顔が赤くなったり、脈が速くなったり、気分が悪くなることがあります。

アレルギー予防としてパクリタキセル投与30分前までに抗アレルギー薬を服用します。

★起こりやすい副作用 これらの副作用が、すべての方に起こるわけではありません。

### 〈血液検査からわかる副作用〉

#### 心障害

心障害の主な初期症状として、階段や坂道をのぼるだけでも息苦しさを感ずる、疲労感が続く、咳が多くでる、手足にむくみが生じるなどの症状があります。

⇒上記のような症状が気になる場合、心臓の病気の既往がある場合は、お知らせ下さい。

#### 貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつきなどの症状としてあらわれることがあります。場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

## 白血球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があり、治療開始後 7～14 日頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を！  
白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

## 血小板減少

血小板の数が少なくなることがあります。血小板は出血した時に血を止める働きがあります。血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などがおこりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

## 肝機能障害

肝臓の働きが低下することがあります。そのため、定期的に血液検査を行い、肝臓の働きを確認します。

⇒お酒やサプリメント、健康食品でも肝臓の働きが低下することもあります。  
服用中の方は、主治医に申し出て下さい。

## 〈ご自身でわかる副作用〉

### 悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。症状に合わせて吐き気止めを使います。ただし、水分もとれない場合は病院へ連絡して下さい。

⇒食欲がなくても、水分はしっかりとるようにして下さい。

### 下痢

1 日 3 回以上の排便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられた場合は、下痢止めを使用する場合があります。ただし、発熱・嘔吐などを伴う場合は病院へ連絡して下さい。

⇒脱水を防ぐために、下痢または軟便の時は、水分をしっかりと取りましょう。

### インフュージョン・リアクション

投与中から投与後、アレルギーに似た症状が出ることがあります。

『寒気』『熱っぽい』『発疹が出る』『息苦しい』『めまい』などの症状がおこった時は、すぐに医療スタッフにお知らせ下さい。

### 過敏症

点滴中にアレルギー症状がおこることがあります。『息苦しい』『胸苦しい』『気分が悪い』『発疹がでる』『顔がほてる』『突然体がしんどくなる』『顔や体がかゆい』などの症状がおこった時は、すぐに医療スタッフにお知らせ下さい。

⇒アレルギー症状は、多くの場合、点滴を始めてから数分でおこります。

### 発熱

抗がん剤点滴中～点滴後、一時的に熱が出ることがあります。点滴した日の翌日までにすることが多いです。

⇒必要に応じて解熱剤を使うことがあります。主治医の指示に従って服用して下さい。

## 脱毛

抗がん剤の種類や患者さん個人によって違いはありますが、治療開始 2～3 週間後から抜け始めます。髪以外の部分（まゆ毛、ひげ、体毛など）でも同様におこります。治療が終了すれば、少しずつですが生えてきます。

⇒脱毛が気になる場合は、医療用かつらやウィッグ、帽子などをお勧めします。

## 末梢神経障害

治療を開始した直後に、手足がしびれることもあれば、徐々にしびれが出てくる場合もあります。治療を終えても、しびれが回復するまで時間がかかります。

⇒日常生活に支障が出る時は、主治医に相談して下さい。

## 倦怠感

治療開始 2、3 日後に症状があらわれることがあります。また、治療が継続することで徐々に出てくることがあります。症状が強い場合には、お薬で対応することがあります。

⇒無理に動こうとせず、安静にして様子を見て下さい。

## 口内炎

治療開始 1 週間ほどで口の中や歯肉がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出ることもあり、うがい薬や口腔用の軟膏を使うことがあります。

痛くて食事がとれない場合は、病院へ連絡して下さい。

⇒こまめにうがいや歯みがきをして、口の中を清潔に保って下さい。

## 味覚障害

治療にともない、徐々に味覚の変化がおこってくることがあります。甘味しか感じなかったり、濃い味にしなければ味がわからなかったりと患者さんによって症状は様々です。

## 血管外漏出（壊死性）

点滴部周辺に不快感を感じる、赤くなる、痛みがでる、腫れるなどの症状があらわれることがあります。すぐに適切な処置をしなければ、潰瘍ができたり、ひどい場合には皮膚が壊死してしまうこともあります。

⇒痛みや異常を感じたら我慢せず、ただちに医師・看護師にお知らせください。外用薬などが処方された場合は継続して塗るようにしてください。ご自宅に帰られた後も、点滴部周辺に違和感を感じたり、症状が軽快しない場合は病院にご連絡ください。

## ★すぐに連絡をいただきたい副作用



- ★「動くとき息が苦しい」、「疲れやすい」、「足がむくむ」、「急に体重が増えた」（心障害）
- ★「ふるえ」、「悪寒」、「38℃以上の発熱」、「肌のほてり」、「紅潮」（敗血症）
- ★「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」このような症状が急に現れる、または以前から症状があった場合は、症状が急に悪くなる。（間質性肺炎）

※これ以外にも、いつもと違う症状を感じたら病院へ連絡してください。

担当薬剤師